

秘

昭和六〇七
參謀本部第二部

支那ニ關スル九國條約ニ對スル帝國ノ態度ニ就テノ意見

前言

現在迄ノ帝國ノ行動ハ自衛權發動ノ結果ニ依ルモノニシテ何等九國條約ニ
低觸スルモノニアラス從テ列國ノ之ニ對シ容喙スルモノナシト雖滿蒙ニ於
ケル政權ニ異動ヲ生シ次テ帝國ト同政權トノ交渉ヲ開始スル場合ハ之カ屬
ニ既得權益確保ノ範圍ヲ越ヘサル場合ニ於テモ尙各種ノ理由ヲ提ケテ干涉
的態度ニ出ツル國ナシトセス而シテ我ニ於テ容喙ノ第一歩ヲ認容スルニ於
テハ問題ノ如何ニ拘テス仲裁ニ名ヲ繕リテ支那ヲ擁護シ帝國ノ行動ヲ抑制
スルコトアルヘシ故ニ帝國トシテハ九國條約ノ適用ヲ提起セラルヘキ場合
ノ理由ヲ探究シ之ニ處スル方策ヲ講シ置クヲ要ス

方針

帝國ハ九國條約ノ干與ヲ挑發スルカ如キ行動ヲ努メテ避クルモ若シ同條約
ニ依リ他國ノ交渉ヲ受クルニ至ラハ正ニ第三國干涉ノ第一歩ナルヲ以テ之ヲ峻拒
スルノ注意アルヲ要ス

處置

現在迄ノ情勢ニ於テハ九國條約ノ活動ヲ見スト雖事態ノ推移如何ニ依テハ

0026

米國其他ノ發意ニ依リ同條約ノ活動ヲ見ルニ至ル場合ナシトセス
豫想シ得ヘキ動機並之カ對策ヲ述フレハ左ノ如シ

一、滿蒙方面

1、滿蒙方面ニ於テハ第一條ノ(一)(原文支那カ自ラ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最障碍ナキ機會ヲ之ニ供與スルコト)ニヨリ帝國ノ行動カ其趣旨ニ反シ獨立政權樹立ノ情勢ヲ誘致シ又ハ帝國軍今次ノ行動ニ依リ滿蒙ノ安寧秩序ヲ攪亂セラレタリトナス場合

2、若シ帝國ニシテ滿蒙ノ政權ト交渉スル場合ハ第一條ノ(一)(原文支那ノ主權、獨立並其領土的及行政的保全ヲ尊重スルコト)ニヨリ現中央政權ニ反抗スル地方政權ヲ承認シ之ト交渉スルハ現中央政權ノ主權及支那ノ獨立ヲ侵害スルノミナラス行政的保全ヲ尊重スルモノニアラストナス場合

1、ノ場合ニ於テハ固ヨリ日本ヲ直接ノ責任者トシテ九國條約適用ノ當事國トナスコトナク單ニ抽象論トシテ支那ニ有力且安固ナル政府ノ確立ヲ維持スルニ障害アリトシ且滿洲ノ安寧秩序ヲ攪亂シ之ヲ不安ノ情勢ニ置クハ一ニ帝國軍ノ行動其因ヲナスモノトナシ九國條約ニヨリ交渉ヲ開始セントスルモノナルモ右ハ事件ノ發端カ支那ノ暴舉ニ基キ帝國ハ自衛上

ノ必要ヨリ軍事行動ヲ採リ爾後ノ行ニモ亦支那側ニ未タ責任ヲ以テ滿洲ノ安寧秩序ヲ保持シ我國民ノ生命財産並既得ノ權益ヲ擁護スヘク信賴スルニ足ル政權ナク自衛上已ムヲ得ス條約所定外ノ地域ニモ駐兵シアアルモノニシテ尙帝國トシテ獨立政權ノ樹立ニ干與スルハ却テ支那ノ内政ニ干渉スルモノニシテ帝國ノ夙ニ之ヲ嚴禁シアルトコロナリトシテ反對ス以上ノ如キ關係ニアルヲ以テ帝國カ滿蒙ニ於ケル政權ヲ承認スル時機ハ過早ナルヘカラス（獨立政權承認ハ次ノ項ニモ關係ス）

2、ノ場合ニ對シテハ今日迄幾多ノ前例アリ且帝國ハ獨立政權ノ樹立ニ何等關係スルモノニアラサルハ勿論南京中央政權ニ對シテモ常ニ好意ヲ有シ帝國カ滿蒙政權ト直接交渉セントスルハ帝國年來ノ主張ニシテ是レ地方的問題ヲ帝國ノ特殊の立場ニ於テ解決ヲ企圖セントスルモノニシテ速ニ支那ニ平和ヲ招徠スル所以ナル旨ヲ述ヘテ之ヲ反駁ス

而シテ第七條ハ「締約國ノ何レカノ一國カ本條約ノ規定ノ適用問題ノ討議ヲナスヲ望マント認ムル事態發生シタルトキハ何時ニテモ關係締約國ニ充分ニシテ且隔意ナキ交渉ヲ爲ス」ヘキコトヲ約シアアルモノナルヲ以テ前記1、2ノ理由ヲ提テ九國條約ト關係ヲ結ビ第七條ノ適用ニ依リ九國條約ヲ活用シテ干涉ノ第一歩ヲ進メントスル場合ハ前記ノ理由ニ

依リ斷乎トシテ之ヲ拒否ス

ニ支那本土方面

- 1、前項ノ如キ抽象論ニ對シテハ同様ノ態度ヲ持ス
- 2、日貨排斥ニ對抗シ又ハ居留民ノ生命財産ノ現地保護ノ爲出兵スル場合ハ自衛權ノ發動ナリトシテ應酬スルコト現時ニ於ケルト異ルコトナシ
- 3、支那ノ經濟斷交並國交斷絶ノ宣言ハ我ニ對スル宣戰布告ト同様ナリ

宣言セシテ經濟斷交ノ情勢ヲ誘致シタル場合ハ帝國ハ彼ニ對シ正當ナル特殊ノ權益ヲ有スルカ故ニ相當ノ損害ヲ蒙ルニ至ルヘク從テ禍根ヲ絶滅センカ爲我軍ノ行動相當積極的ニ且ルモ亦自衛權發動ノ結果ナリトシテ他國ノ干涉ヲ拒否ス

結 言

之ヲ要スルニ帝國ハ自衛上ノ立場ニ於テ行動ヲ律スルモノナルコトヲ終始一貫セル主張トシテ他國ノ干涉ノ態度ヲ排除スルヲ要ス尙支那ノ政情ニ關シテハ内政不干渉ノ主義ヲ以テ帝國ノ態度公正ナルヲ標榜スヘシ然ルニ政府並國民ハ列強殊ニ米國ノ言動ニ極メテ敏感ニシテ果シテ斷乎タル決意ヲ以テ我主張ヲ貫徹シ得ルヤニ就テハ多大ノ疑問ナキ能ハス從テ政府殊ニ國

民の決意ヲ統一鞏固ナラシムル爲メ處置ヲ講スルヲ緊急ノ要事トナス

...

...

...

...

...

...

...

0030